

通う人の  
言葉から  
見えてくる  
スクール

## 学ぶ人 学ぶ場所

永井彩さん(21)



とにかくやりたいことが多いんです。  
WEBもグラフィックも映像も  
すべてオールマイティーにやりたい!

演劇、絵画、陶芸、縫製など、幼い頃からあらゆるアートに挑戦してきた永井彩さん。現在は、短大時代に魅せられたコンピュータグラフィックを本格的に学ぶため、デジタルハリウッドで勉強しているが、彼女の興味の対象と可能性は留まるところを知らない。

文=木下健児 撮影=大内政典

オリジナルキャラクター  
を活かす道を求めて

昨年の4月からデジタルハリウッド東京本校のグラフィック・アートデザイナー専攻に通っている永井彩さんは、オリジナルキャラクターのイラストをプリントしたTシャツやポストカードなどを作成してデザインフェスタに出展するなど、精力的な活動を続けているアーティストの卵だ。幼い頃から舞台演劇に出演し、短大では美術／工芸コースを専攻した。そんな経歴を持つ彼女が、どのような経緯でデジタルハリウッドでコンピュータグラフィックスを学ぶに至ったのだろうか。

「短大では、陶芸や織物、染色、絵画、グラフィック・アートなどの美術全般を学んでいました。そこでMacやイラストレータ、フォトショップなどに触れる機会があったんです。Macに取り込んだ手書きのイラストを加工できることが面白くて、もっと本格的に学びたくなつて、このスクールへ進みました」

よくある就職のためにスキルを修得したいとか、将来はデザイン関連の仕事に就きたい、といった目標があったわけではなく、純粹にコンピュータグラフィックを学びたい一心での選択だったのだ。スクールでは、WEBデザインとグラフィック、そしてDTPを習い、得意のイラストを活かして前述のTシャツやポストカード、ポートフォリオ(作品集の冊子)などの作品を生み出している。それらの作品は、委託販売を行うショップにも出品して好評価も得ているそうだ。

## 永井さんのスクールでの1日



永井さんが受講しているグラフィック・アートデザイナー専攻は、本科と呼ばれる1年コース。スクールに通うのは週3日程度だが、授業がない日も学校のパソコンなどを利用できる制度がある。



Power Mac G5がずらっと並ぶ教室での授業風景。先生のMacのデスクトップをミラーリングされたモニターで見ることができ、授業内容によっては大型プロジェクトが使われる。



教室の前方で授業の進行を勤める担当の先生と、直接各生徒の指導を行ってくれるアシスタントも常駐しているの、わからない操作があっても気軽に質問できる。



生徒同士のコミュニケーションを深めるラウンジでの風景。この取材中も、多くの生徒たちがグループで作成する課題の打ち合わせなどを行っていた。



## WEBもグラフィックも映像もすべてやりたい!

グラフィックアーティストとして歩み始めている彼女だが、他にもいろいろなアートに興味を持っている。例えば、幼い頃から始めて短大時代にも続いていた演劇の世界では、撮影した舞台の映像編集に魅せられた。

「演劇の映像を編集している友達がいちかどと驚き、同時に自分でも映像の編集がやりたくまりました。短大の授業に映像はなかったんですけど、先生に映像がやりたいと言って許可をもらって、卒業制作として作成しました」

思い立ったら即行動、というのがエネルギッシュな彼女の行動パターンらしく、即座にeMacやファイナルカットなどを買い込んで、映像編集にも挑戦した。教科に映像編集が含まれないグラフィック・アートデザイナー専攻へ進んでも、ぬいぐるみコマ撮りしたアニメーションを作成するなど、映像編集への熱意は消えてはいない。さらに、スクールで学んだフラッシュ作成技術を使って、イラストを動かすアニメーション作品も手掛けるなど、連鎖反応のごとく興味の対象が増えている。

「とにかくやりたいことが多いんです。WEBもグラフィックも映像もすべてオールマイティーにやりたい!」  
インタビュー中に「あなたはグラフィック・アートデザイナー専攻でしよっ」と先生に笑いながらツツこまれる場面もあったが、何でもやってみたいという彼女の欲求は止められないようだ。現在は、顔写真をフォトショップで加工したアート作品を、卒業制作として友人と一緒に作成している。卒業制作のグループ作成は禁止されていたが、または先生に無理をいって許可をもらったというのが彼女らしい。

卒業を控えている時期なので、就職先にも悩んでいる最中だが、「いろんな扉、という可能性がある会社に入りたいですね」と、笑顔で語ってくれた。彼女なら、就職先で見つけた新たな興味の対象にも、エネルギッシュにそして楽しみながら挑戦して行くだろう。

## 永井さんの1週間

デジタルハリウッドのグラフィック・アートデザイナー専攻は、1年コースで週3回の授業だ。空き時間を作品制作や演劇の部活動に向けている。

	午前	午後	夜
月	授業	授業	部活 (演劇)
火	自習	自習	部活 (演劇)
水	授業	授業	部活 (演劇)
木	授業	授業	部活 (演劇)
金	自習	自習	部活 (演劇)
土	自習	自習	自習
日	自習	自習	自習



手書きのイラストをMacに取り込んで、Tシャツやポストカードなどに印刷した、永井さんオリジナルキャラクターグッズの数々。デザインフェスタへ出展したり、委託販売などを行って好評を博している。



グラフィック・アートデザイナー専攻の課題作品としてDTPソフトで作成した、フルカラーのブックレット。永井さんのイラストやキャラクターが、自由奔放なレイアウトによって引き立てられている。

## 永井さんの作品紹介

### デジタルハリウッド東京本校

☎ 0210-386-810

🌐 <http://www.dhw.co.jp/>

東京都千代田区神田駿河台2-3 DH2001 Bldg.  
(他に池袋校、渋谷校、秋葉原校、横浜校、大阪校、京都校、神戸校、札幌校、福岡校がある)



業界の最新技術や知識をリアルタイムに反映するカリキュラムが特色のマルチメディアスクール。今回紹介したグラフィックとWEB関連のコースの他、CG/映像関係やエンジニアリングなど幅広いコースがあり、特に東京本校は社会人向けの講座が充実している。また、卒業生が数多く活躍しており、幅広い人材交流が可能な点や就職に強いという特色がある。教育訓練給付金制度対象コースも多く設けられている。

●どのような特色を持つスクールですか？  
教える内容は、クリエイティブ系がメインです。1〜3カ月でインデザインやフラッシュ作成などを学ぶコンプリートプログラムも用意していますが、1年間で学ぶ本科や6カ月で学ぶ総合Proでは、グラフィック・アートやWEBデザインなどを総合的に教えています。例えば、私が担当しているグラフィック・アートデザイナー専攻では、ソフトの使い方はもちろん、デザインの基礎なども授業に取り込んでいます。

●どのような生徒さんが多いですか？  
非常にモチベーションの高い生徒が多いですね。就職を目指して資格やスキルを修得したい人、アート作品を作るための勉強や仲間探しを目的にしている人、自分のやりたいことを見つけるために学校へ来ている人の3タイプに分けると、ちょうど三分分されるような割合ですね。土日の授業では、転職を考

えている社会人の方も多いです。年齢層も幅広く、私が聞いたことがある中では中学生から75歳くらいまででしょうか。平均的には20代の方が多いのですが、専攻によっても異なりますね。

●取材をした教室には、生徒一人につきPower Mac G5が1台用意されています。定期的に設備を入れ替えるなどして、最新の設備を維持しているのですか？  
定期的にとりかかるといってもいいですね。機材の入れ替えは結構頻繁に行っていますね。ソフトウェアは可能な限り最新のバージョンで、ハードウェアは最新の環境が動作する中で、できるだけ処理速度の速い製品を選んでいきます。常に、最高の機材を用意して、現場と同等か一足先の環境で学ぶことができるのも、このスクールの特色の一つですね。

●卒業された生徒さんは、どのような就職先へ行くのですか？  
私が担当しているWEBのコースでは、大手制作会社に進んでディレクション関連の仕事をしたり、デザイン事務所などで制作の現場に携わる人の2パターンが多いですね。最近は起業志向の方も多くて、在学中に何人かのグループで会社を起す生徒もいます。修了後も5年間スクールの設備を利用することができるのもメリットです。

先生に  
聞きました!



渡部昇治先生